

道退教とかち

NO 127
2013. 9.

全北海道退職教職員の会 十勝・帯広支部

支部長 尾崎 忠顕 事務局 瓜屋 讓

〈事務局〉 080-0055 帯広市柏林台東町4丁目9番地 0155-34-1009

E-mail uri-027@m2.octv.ne.jp

観光旅行の事業

今年は、幕別温泉パークホテル
札内悠湯館です！

今年からこの旅行が、唯一の宿泊付の行事となりました。ぜひ、多くの会員の参加で親睦・交流を深めたいと幹事一同はりきって準備を進めております。送迎バスもご利用ください。

□と き 10月7・8日(月・火)
□内 容 パークゴルフ、夕食懇親
□会 費 日帰り5,000円、
互助会有8,000円、無10,000円
(いずれも二次会費込みです)
＊葉書を忘れずに出してください！

この夏は、本州各地の四〇度越えの天気に比べると、夏らしい日がとても少なかつたというふうに感じていますがどうでしょうか。

その分過ごしやすく、三週間ほど病院にいたこともあって、いつになく本を読むことができました。前号で、「アチ・十勝野」を発行することをお伝えしましたが、文芸作品を収録することに加え、会員のみなさんの読書感想なども載せたいと思っています。奮ってお寄せください。

最近読んだ本の中でインパクトが強かつたのは、三木裕和著「希望でみちびく科学」—障害児教育ホントのねうちー（クリエイツかもがわ）と井上ひさし著「ボローニャ紀行」（文春文庫）です。

わたしは、退職の少し前に北海道子どもの虐待防止協会と出会い、多くのことを学ばせていただいています。また、児相で出会った子どもたちの中にさまざまの障害を抱えた子どもたちが多かつたことや、個別に寄せられる相談事例の中に発達障害に関する事例が少なくないことが、障害児教育についても学ぶ必要に迫られました。そして、現場の実際の指導や実践を綴ったレポートに

教育署名スター

今年もよろしくお願いします
一人10筆で、

今年一ノセ500筆達成を

署名用紙を同封しました。運動と近所つきあいを兼ねて足を運んで貰えると嬉しいです。「10筆以上でできますよ」という方は、連絡をいただければ、署名用紙を追加でお送りします。

とりえず、10月いっぱいを第1次締め切り、12月末を第2次締め切りとします。事務局まで届けてください。今年は、みなさんで街頭署名の統一行動などをやってみてはどういかと考えております。

ようこそ！よろしくお願ひします

新入会者 堀田省悟さん

今年の3月、中札内村立上札内小で退職され、そのまま再任用で特別支援学級の担任として同校に勤務しています。堀田さんの年代は、再任用の道は確保されていますが、フルタイムなので、現職時代と同じように働きながらも給料は半分、ボーナスなしです。堀田さんに、「この夏の様子を聞くと、ご家族で、「愛媛、高知を回ってきました。あの四十万十の四〇度越えの前で良かった」と。

今年は、西部（清水町御影）で
方面交流会をします！

- ◇と き：9月21日（土）
 ◇会 場：小沢 裕さん宅の離れ
 ◇ 9:30～10:30 パークゴルフ
 ◇ 10:30～11:45 懇談・交流
 ◇ 12:00～13:00 そば名店で会食
 ◇ 13:00～御影公民館で個展鑑賞など

*車を出します。同乗ご希望の方は瓜屋まで

恒例女性お食事会

- * 10月21日(月) 12:00より
- * ホテル／ースランド 丹頂
- * 会からお食事代の補助があります

今年も多くの参加で、盛会でありますように！

触れてみると、社会的な適応行動をいかに定着させるかという傾向が強いことに気づきます。わかり易くいうと、さまざまな SST(ソーシャルスキルトレーニング)がそれで。しかし、トラブらないでそんなり行動できることがそんなに大事なのかと思わずにはいられません。しかも、それは教師がついているときだけのある条件のもとで通用することであって、子ども自身が変わることの難しさはとても難しいことなのです。もつと言うと、すんなり行動できることを求めているのは子どもではなく、じつは担当教師なのではと。いま学校は、子どもたちの失敗やムダを切り捨てる方向に流れています。著者は、それに疑問を投げかけ、「できなさ」に潜んでいる発達的価値とは何かを私たちに訴えかけています。

「ボローニヤ紀行」は既に読んでいる方が多いでしょう。いまの日本の、貧困問題をはじめとする課題にどう立ち向かうかの知恵を、イタリアの歴史と住民自治をユーモアたっぷりに紹介しつつ教えてくれているように感じました。